



- ◆ 最上教育事務所指導課通信
- ◆ 令和8年1月7日
- ◆ 最上教育事務所指導課
- ◆ 第 10 号

## 英語教育推進事業 公開授業研究会(大堀小学校) 令和7年12月2日(火)

「令和7年度グローバル人材育成に向けた英語教育推進事業」における公開授業研究会を、実践推進校である大堀小学校を開催しました。大堀小学校ではこれまでの授業づくりにおいて、「英語でのやりとりを軸にした、子ども同士が関わりながら学び合う授業」の実現を目指し、子どもたちが自然と英語を使いたくなる場面づくり、音声によるインプットの工夫、既得表現等を活用した対話の広がりなどを重点に据え、校内で方向性を共有しながら取組みを積み重ねてきました。荒川優芽教諭による第6学年「I want to go to Italy.」の授業では、子どもたちが授業の参観者に対して、既得の表現を使いながら自己紹介をしたり、共通点を探すため質問したりする言語活動の場面が設定されました。単元末の活動ということで、参加者とのやり取りを通して、自分が伝えたいことや聞きたいことを英語で表現することができたという達成感を多くの子どもたちが感じることができました。

当日は、講師に、CALA グローバルの阿部フォード恵子先生をお招きし、授業への指導・助言をいただくとともに、「他者との関わりの中で、自分の気持ちを英語で伝える力を育む授業づくり」について講義していただきました。

### ～大堀小学校の実践より～

#### ★英語発信力の向上に向け

- ・児童が「相手に伝えたい内容」をもって話せるよう、自己の経験・思いと表現が結び付くように言語活動を設定する。
- ・英語表現の正確さのみを重視するのではなく、伝える内容・相手意識を重視する。
- ・発表の前後に振り返りを位置付け、自分の表現の良さや伸ばしたい点を自覚できるようにする。

#### ★系統的な指導の充実に向け

- ・各 Unit を単発で扱わず、「自己紹介をふくらませる」という大単元を貫く学習目標を設定する。
- ・児童が既得表現を「使える形」として認識できるように、言語活動とそれを受けた指導を繰り返し行う。
- ・Unitごとに「できるようになったこと」について ICT 等を使って蓄積し、学びの連続性を大切にする。



### 《大単元のイメージ》



## 栄養教諭指導力向上事業(減塩ベジアップ事業との連携) 令和7年12月9日(火)

令和7年度栄養教諭に係る指導力向上事業として研究指定を受けている明倫学園において、栄養教諭の西嶋亜矢子先生より実践授業を実施していただきました。今回の授業は、減塩・ベジアッププロジェクト事業との連携で「味の素」から提供いただいた「5基本味体験キット」を活用した、第5学年の学級活動 食に関する指導を行いました。体験キットを使用し、子どもたちが実際に5基本味を味わいながら思考することができ、食に関する関心が高まっている様子が見られました。

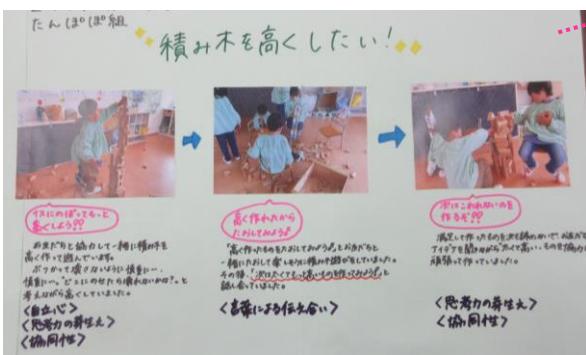
### 授業後の児童の姿

- ・給食の時間に「今日の給食にはすべてうまい味がある」、「これは酸味だ」など味わって食べる姿が見られた。
- ・自学ノートに授業で学んだ5基本味についてまとめてきた児童もいた。



# 幼稚園等新採教員研修最上教育事務所研修 令和7年11月11日(火)／12月1日(月)

山形県では、実践的な指導力と使命感を養い、総合的な人間力を高めることを目的として、幼稚園・認定こども園の新規採用教員を対象とした研修を行っています。最上地区では、新庄幼稚園、金沢幼稚園において2名の新規採用の先生方が日々の保育に奮闘しています。11月11日は向陽幼稚園、12月1日は新庄小学校を会場に、幼保小の学びつながりをテーマに研修会を行いました。研修者が保育参観や授業参観で印象に残った子どもの姿を写真に収め、そこから読み取れる子どもの思いや思考をドキュメンテーションで表しました。さらに、日頃の子どもの様子を知る園や学校の先生方と、子どもの育ちを語り合いました。



## 【向陽幼稚園】「積み木遊び」

友だちと協力しながら、積み木を高く積もうとしているところです。ジェンガのように積み木の向きを変えて頑丈な土台を作り、「どこに乗せたら壊れないかな?」と考えながら積み重ねていたようです。小学校の「図形」の学習にもつながる遊びです。



## 【新庄小学校】1年生活科「秋のおもちゃづくり」

手作りの楽器を友だちに演奏してもらい、よりよく進化させようとしているところです。「葉っぱは壊れやすいんじゃない?」というアドバイスをもらって、割りばしとストローに替えることにしました。松ぼっくりのばちでこするといい音が!さらに、ストローと割りばしの音の違いにも気づいていたようです。

# 県教育委員会計画指導訪問に学ぶ

真室川町立真室川中学校  
新庄市立明倫学園

令和7年度は、真室川町立真室川中学校、新庄市立明倫学園の2校で、県教育委員会計画指導訪問を実施しました。計画指導訪問のねらいは以下の2点です。

- (1) 令和7年度の「山形県学校教育指導の重点」・「最上の学校教育指導の重点」に即して学校教育の現状を把握し、指導行政の適正を期す。
- (2) 当該校の抱える諸問題を中心に協議を行い、その解決のための方向付けと学校教育の活性化を図る。

## 【真室川町立真室川中学校】

### 主体的に研修に向かうための校内体制の充実

#### ○取組み内容

- ・職員一人ひとりが主体的に研修を受講できるように研修会を周知
- ・初任者研修や経験者研修の教員等がチームで学べるように校内体制の調整を行い、環境を整備

#### ○成果

- ・ベテラン教員が率先して研修に取り組む姿勢が、若手教員へ良い影響を与え、教員間で学びの相似形が生まれている。
- ・学年団、校務分掌、教科部会など多様な場面で校内OJTが成立し、活気のある職員集団を形成している。

## 【新庄市立明倫学園】

### 教科担任制の良さの発揮

#### ○取組み内容

- ・1～9年生までの教科担当で教科部会を編成し、小中の垣根を超えた授業づくり
- ・義務教育学校の特性を生かした、教育課程の編成と学習スタイルの共通化

#### ○成果

- ・各教科における教材研究の深まりが見られている。
- ・複数人で教材研究を行うことで、教職員の負担軽減につながっている。
- ・小・中学校の指導内容について協議することで、教科の本質を捉えた授業づくりにつながっている。